

施工の前に必ずお読みください

天然の無垢材の良さを最大限活かすための注意事項です。

使用を決定される前にお施主様に天然無垢材の性質(長所/短所)を十分説明、理解して頂いた上でご使用して下さい。

施工前

<保管>

- ・水がかかりやすい場所、湿気の多い場所および直射日光のあたる場所は避けて下さい。
- ・水平な場所に同じ高さのリングを置いてその上に保管してください。

<施工前に>

- ・無垢材は生きて呼吸をしているため、現場で一週間くらい前より開梱して、現場の環境になじませてください。但し、パイン材は養生期間を持たせずすぐに施工してください。
- ・モルタル下地への施工の場合、養生期間を十分にとってください。(モルタル含水率 10%以下)
- ・床下の換気を十分とって下さい。外壁、サッシ工事が済み、雨等の水の吹込みがない状態で施工してください。

<下地施工>

- ・大引は 90 mm角以上 909 ピッチ、根太は 45 mm角以上の十分乾燥した材料(含水率 20%以下・乾燥していないと捻じれや痩せなどで踏み鳴りの原因となります)を使用し、厚みを揃え高さを一定にして 303 mmピッチ以下で施工してください。
- ・12 mm 以上の耐水合板を必ず捨て貼りして下さい。(MDF/OSB/パーティクルボード等は湿気を吸込み易いので使用しないでください)
- ・耐水合板の施工は 909 mm(900 mm)ずらし、接合部は 1~3 mm 程度の隙間を設けてください。
- ・湿気の多い場所では 0.1 mm 以上の防湿防水シートを根太と耐水合板の間に敷き込んでください。
- ・床上にピアノ等の重量物を置く場所は根太間隔を狭くするなどの下地補強を行ってください。

施工後

- ・細かい塵等を完全に取り床に傷ができるのを防ぎ、床の表面保護の為通気性のある養生シート又は養生ボードにて全面を保護してください。
- ・養生は全面を覆ってください。養生していない箇所が残るとその箇所だけ紫外線等により色違いが生じます。
- ・養生テープはフローリング塗装面に貼らないでください。塗装表面が剥がれる可能性があります。又、テープの接着剤が付着することにより汚れや変色をおこすことがあります。
- ・養生中のフローリングは環境が厳しくなりますので養生期間や条件に注意してください。
- ・水の入ったバケツや濡れた雑巾等を絶対に床に置かないでください。シミの原因となります。
- ・水拭きも厳禁となります。

当社免責事項

- ・納品時に不良品や欠陥商品があった場合は、欠陥製品の交換をさせていただきます。既に施工済みの商品については交換出来ませんので、**施工前に必ずご確認の上、施工願います。**
- ・天然木フローリングの為、使用環境によっては膨張収縮による反り、割れ、捻じれ、突上げ、隙間等が生じる場合があります。これらのトラブルはクレームの対象にはなりません。
- ・天然木の為、色調、柄等の違い、経年劣化による日焼け等はクレームの対象にはなりません。
- ・上記のクレームによる補修、張替え工事等の費用の返済は行われません。但し弊社の製品が直接の原因とされる場合にはこの限りではございませんのでご相談ください。
- ・無垢フローリングを施工、又は使用を決定される前にお施主様に天然無垢材の性質(長所/短所)を十分説明、理解して頂いた上でご使用して下さい。
- ・虫害について

極稀に床材表面に小さな穴が開き、木の粉の様なものが出てくる事があります。

これは、木部についた虫害と考えられます。

弊社の床材は、製造工程で高温熱処理を行いますので、その際に虫や卵は完全に死滅します。

よって、万が一虫食いが発生した場合、製品になった後の流通段階や施工後に外部から飛来して産卵したものの可能性が高くなります。現在、日本でも生産国でも、強度の防虫薬剤の使用は制限されております。

万が一、ご使用されているフローリングに虫害が生じた場合、

処理のお手合いはさせていただきますが、クレームの対象にはなりませんのでご留意ください。

施工時

<仮並べ>

- ・天然木の為、色柄は1枚1枚異なります。施工前に仮並べをしてバランスをとってください。傷や塗装の塗りむらが無いかなども確認してください。問題がある場合は施工前にご相談ください。施工後は商品の交換ができかねますのでご了承ください。

<貼り込み>

- ・必ず接着剤と釘併用で施工して下さい。材種や施工季節によって伸縮の度合いは違いますので調整してください。
- ・接着剤は F☆☆☆☆ の 1 液型ウレタン樹脂系の木質床用をご使用して下さい。(木工用ボンド等の水溶性接着剤は膨張や床鳴りの原因になります。絶対に使用しないで下さい。)
- ・接着剤塗布の際はサネ加工部分に接着剤が決してつかないようにして下さい。サネ加工部分に接着剤が付着すると巾方向に接着固定されたフロー全体が 1 枚のフローアとして膨張収縮が起きます。膨張収縮時にはフローア巾 1 枚時の動きに比べ大きな隙間、突上げが起きます。
- ・下地合板のジョイント部分とフローリングのジョイント部分は重ならないようにしてください。
- ・張込みはサネを強く叩き込みすぎないようにして下さい。膨張時の反りを防ぐ事が出来なくなります。
- ・フローリングとフローリングの間に名刺 1 枚分程度のクリアランスを設けて下さい(広葉樹の場合)
- ・オスザネ部分に直接釘打ちするとサネ部分が欠けたり割れたりする場合がありますので予めドリルで導き孔をあけてから釘打ちしてください。
- ・釘は、38 mm以上のフローア用ネイル・ステーブルを 45 度の角度で下貼り合板を通して根太上に打ち固定して下さい。釘頭が浮かないようにしっかりとポンチで締め付けてください。
- ・壁面への納めは密着させず 5~10 mm程度の隙間を設けてください。(敷居、框納めも同様)その他の場合でもフローリングの巾方向の両端は壁などに密着させないでください。